

平成29年度 事業報告

(平成29年4月1日～平成30年3月31日)

(はじめに)

大阪対がん協会は平成25年8月1日付で旧財団法人から公益財団法人に移行した。今回は公益財団法人に移行して5期目、期間は平成29年4月1日から平成30年3月31日までの報告となる。

《 公益目的事業 》

(公1)普及・啓発活動： 啓発イベント開催・情報発信・がん検診の奨励など

【 がんに関する啓発イベント 】

▽主催行事

① 大阪対がん協会セミナー

単独で運営する啓発イベント「大阪対がん協会セミナー」を今年度は2回開催した。第3回は、9月17日に大阪市北区の朝日新聞アサコムホールで実施した。第1部では基調講演の後、がん研究助成奨励金受賞者が当日のテーマと受賞時の研究内容を関連させた講演を行い、次の第2部の患者を交えたシンポジウムでは、研究者、看護師、患者、社会保険労務士が意見の交換を行い、参加者にそれぞれの立場から考える機会を提供した。また、参加者にマンモグラフィ検診無料クーポン券を配布し、がん検診受診率の向上に貢献できた。第4回は、9月14日に大阪市西区の大阪科学技術センターを会場に、大阪対がん協会の役員である3人の大学学長と大阪国際がんセンター総長ががん医療について講演した。入場者は230人を超え、これらの参加者から事前に出された質問にも講演者がそれぞれの専門分野に応じて答えた。なお、この日の講演内容などについて後日の朝日新聞の紙面に掲載した。

各回のテーマと講演者は次の通り。

開催日	テーマ	講演(敬称略)
第3回 9月17日	がんと就労 ～仕事をしながらの治療～	田中登美(兵庫医療大学看護学部准教授) 濱口佳子(堺市立総合医療センター看護局副 師長)
第4回 2月24日	四大学長・総長の集い ～がん医療、これからの展望～	総合司会 遠山正彌(大阪府立病院機構理事長) 講演 塩崎均(近畿大学学長) 荒川哲男(大阪市立大学理事長兼学長) 友田幸一(関西医科大学学長) 松浦成昭(大阪国際がんセンター総長)

② 成人病公開講座

大阪国際がんセンター、大阪成人病予防協会とともに4回開催した。いずれも会場は大阪国際がんセンターで毎回ほぼ満席となり、合わせて約700人が参加した。各回とも大阪国際がんセンターの医師を中心とした講師が、図や表などを織り交ぜて、分かりやすく説明している。各回のテーマと講師は次の通り。

回数	開催日	テーマ	講師(敬称略)
76回	6月13日	新病院における最先端がん医療	今村文正、竹内洋司、大森健、手島昭樹
77回	9月12日	肉腫・骨転移	濱田健一郎、大島和也、加藤祐司、谷口小百合 田平芳子
78回	11月14日	がん患者さんの療養サポート 最前線	飯島正平、大島和也、池山晴人、柳川のり子
79回	2月13日	膵がんのすべて	田淵貴大、井岡達也、高橋秀典

③ がん予防キャンペーン大阪2017

「がん予防キャンペーン大阪」実行委員会が主催するシンポジウムは、10月7日大阪市中心区朝日生命ホールで開かれ、263人の参加があった。当協会は実行委員会を構成する主催11団体の一つとして15万円を負担した。構成団体はほかに大阪府、大阪市、大阪府医師会などで、事務局は大阪府保健医療財団が担当している。今年度のテーマは「胃がんは治る！大切な検診と適切な治療」で、3人の講師が、それぞれ「胃がんの早期発見のために—胃がん検診の正しい理解—」「胃がん内視鏡治療の最前線」「胃がんは治る！外科治療にできること、最新の外科治療」について講演を行い、総合討論も行われた。当キャンペーンは、大阪府のがん死亡率とがん検診の受診率を改善するために毎年行われている。

④ 遺贈セミナー

(主催は日本対がん協会、大阪対がん協会)

遺贈セミナーは、3月2日大阪市西区の住友クラブで開かれた。弁護士の中山二基子氏が豊富な事例を紹介し、遺言、相続、財産を社会に役立てる遺贈についての情報を提供した。併せて、両対がん協会へがん征圧活動のための資金を供与する遺贈支援の検討もお願いした。

▽「共催」「後援」行事

医療機関、患者団体などが主催するイベントに対して、共催や後援をして支援した。協会ホームページの「講演会・イベント情報」欄に掲載したほか、朝日新聞のお知らせ欄「タウン」への掲載などで広報PRに務めた。また、協会が提供した発行の小冊子「進め！がん防衛隊」を参加者に配布したイベントもあり、イベント支援を通じて他団体と信頼関係を築くことに努めている。

【 がんに関する情報発信】

① オリジナル小冊子などの配布

協会発行のがん啓発小冊子「進め！がん防衛隊」を配付し、多くの方のがんを知るきっかけとしてもらうために、主催行事などでの配布や希望者への送付を続けている。また、医療機関などから、大部数を希望された場合は1部60円で販売を行った。今期末に在庫が無くなり、現在第2版を作成中である。また、別のがん検診を勧める啓発チラシを2種類作成し配布している。

② 協会ホームページ

インターネットによる情報収集の広がりに対応するため、平成22年5月に協会ホームページを開設し8年目を迎えた。内容の充実を図るとともに、更新で最新の情報提供に努めた。協会が主催・共催・後援するイベントの告知、がん研究助成奨励金事業の詳細を掲載するほか、決算書などの情報公開資料も開示している。

③ 事業概要・協会報

8月に「平成28年度事業概要」を発行した。28年度の事業内容や寄付者名簿のほか、がん研究助成奨励金受賞者も併せて掲載した。協会報は5月、12月に発行した。

【 日本対がん協会関連事業】

「日本対がん協会大阪府支部」としてがん征圧事業で連携、協力を進めた。

① がん征圧月間

9月を「がん征圧月間」として日本対がん協会が展開する各種事業に参加・協力した。メイン行事として金沢市で開かれた「がん征圧全国大会」に専務理事が参加した。また、共通デザインの「がん検診の推進」と「禁煙」の2種類のポスターを100枚製作し、大阪府医師会、大阪府看護協会など関係各団体へ送るなど、征圧月間の目的であるがんの予防知識や早期発見・早期治療の重要性を広く伝えるための啓発活動を行った。

② 近畿ブロック会議

日本対がん協会と近畿2府4県の支部が、がん征圧事業の報告や意見交換をする近畿ブロック会議は10月3日、和歌山市のアバローム紀ノ國で開催された。事前に各支部から出された質問に日本対がん協会と他の支部が答える形式で、検診に関する動向や各支部運営の管理面について有益な情報を交換する話し合いが持たれた。

③ 乳がん検診無料クーポン券の活用

日本対がん協会が発行しているマンモグラフィ検診無料クーポン券を活用し、がん検診の受診率向上に取り組んでいる。クーポン券は主催・共催行事である大阪対がん協会セミナー、がん予防キャンペーン大阪などに参加された方にプレゼントし、乳がん検診の推進に努めた。

【 患者支援活動】

患者会からの依頼があればイベントのPRなど告知面で協力した。

(公2)がん研究助成：がんの研究、治療に当たる医師、看護師らへの助成

【がん研究助成奨励金】

新進の研究者・医療従事者（基礎・臨床・疫学は40歳未満、看護等は45歳未満）を支援する「がん研究助成奨励金」事業は協会の目玉事業である。同事業は協会設立翌年の昭和35年度から始め、今回で58回目を数えた。29年度は「基礎」「臨床」「疫学」「看護等」の4部門で計15人の受賞者を選び、各30万円を贈呈した。今年度は計81人から研究成果の応募があり、外部の専門家など13人の選考委員が採点した結果をもとに2月22日に開かれた選考委員会（委員長＝松浦成昭・協会長）で受賞者を選んだ。受賞者は今回で延べ1704人、奨励金の総額は4億330万円となった。

贈呈式は3月20日、大阪市北区の中之島フェスティバルタワー12階で開かれ、松浦会長が受賞者に賞状と奨励金30万円を手渡した。受賞者を代表し、看護等の部で受賞した土橋千咲さんが受賞のあいさつをした。

なお、この事業にはMSDから特定寄付として費用の一部について支援を得ている。

《 会員向け事業 》

主に賛助会員向けの特典として協会が進めてきた事業について、公益財団法人移行後は「その他の事業（相互扶助等事業）」として、公益目的事業と区分している。29年度も以下のような会員向け事業を継続実施した。

(他1)賛助会員サービス：定期的な情報の提供・がん検診の奨励

【情報の提供】

① 協会報

協会報は5月、12月の2回発行した。各1200部印刷し、内容は以下の通り。

発行月	主 な 内 容
5月号	平成28年度がん研究助成奨励金贈呈式・受賞者紹介、がん対策基本法の改正、大阪府のがん診療拠点病院、会員の皆様へのお願い
12月号	平成29年度がん研究助成奨励金の募集内容、秋のイベント報告（大阪対がん協会セミナー、成人病公開講座、がん予防キャンペーン大阪）、がん治療の進歩、来春のがん検診案内

② 事業概要

「平成28年度事業概要」を8月に発行した。1200部印刷し、会員のほか、関係機関、希望者に郵送した。A4判で40ページ。従来通り事業報告、決算報告、寄付者名簿などを掲載、がん研究助成奨励金の平成28年度受賞者15人の研究内容を8ページにわたって紹介している。普及啓発活動の紹介の項目では、協会の主催・共催・後援イベントの一覧表を掲載した。

【がん検診の案内】

① 春・秋のがん検診

会員向けがん検診は春と秋に行っており、春（4、5月）は大阪がん循環器病予防センター、秋（10、11月）は大阪府医師会保健医療センターで、胃、大腸、肺、乳腺、子宮の5部位について実施された。春の検診は協会報12月号、秋の検診は8月に案内し、受診を勧奨した。29年度は延べ104人が受診した。

がん検診の奨励に対する協会の負担は、春は検診受診票の送付切手代や印刷費の事務経費、秋は検診施設である医師会保健医療センターへの2万9千円の助成金である。

《協会の運営》

【決算および寄付の状況】

① 29年度末の正味財産について

29年度末の正味財産額は1955万円で、前年と比較して72万円減少した。収支は、経常収益が1399万円、経常費用が1471万円で、支出の削減（前年比114万円減少）に努めたが収入の減少（前年比95万円減少）が大きく、昨年に続き正味財産は減少した。過去3年間の正味財産の増減は26年度（17万円減少）、27年度（9万円増加）、28年度（91万円減少）という結果である。

② 受取寄付金とその内訳について

平成29年度の受取寄付金（会費を含む）は1390万円で、前年度に比べて94万円減少した。過去3年間の寄付金は26年度1674万円、27年度1890万円、28年度1484万円である。

寄付金の内訳は、賛助会員からの会費収入が414万円、会員数は591件、前年度に比べそれぞれ26万円、77件の減少となった。会員のうち、維持会員は485件、特別会員（会費1万円以上の個人または法人）は100件。新入会員は6件。高齢などの理由で維持会員の退会が多く、会員数の減少が続いている。寄付金は976万円、105件で前年度に比べ金額で68万円減少、件数では19件増加した。

【収入増に対する取り組み】

① 特定寄付の確保

がん研究助成奨励金事業については、1社から20万円の寄付金を得た。

② 募金型自動販売機

飲料メーカーと連携し、「がん征圧支援」を掲げる自動販売機の設置に取り組むことで、協会の収入増と知名度アップをめざしている。29年度は大阪府中央区の大阪国際がんセンターに追加して設置され、合計11台となった。募金型自販機を通じた収入は年間約200万円になり、安定した財源になっている。

以上